

令和7年度第2回徳島県公共交通「担い手」創出ワーキンググループ 議事概要

1 日時 令和8年3月25日（水）午前10時から午前11時まで

2 場所 徳島県庁10階 中会議室

3 議事

- (1) 令和8年度の県の支援制度等について
- (2) タクシー配車アプリの導入状況等について
- (3) 意見交換

(事務局)

ただいまから令和7年度第2回徳島県公共交通担い手創出ワーキンググループを開催いたします。まず始めに、徳島県交通政策課長の橋本からご挨拶をさせていただきます。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

交通政策課長の橋本です。本日は年度末のお忙しい中、お時間を取っていただきまして、どうもありがとうございます。

このワーキンググループは、もともとはバス・タクシーのドライバー不足というところからスタートしたところでありまして、令和6年度以降、それだけに関わらず、担い手はもちろんなんですけれども、地域の移動手段をタクシー、バス会社さん、NPOさん、各交通機関でどうやって維持していくかというテーマも取り上げながら、開催させていただいているところでございます。

昨今、ドライバー不足、それから移動手段の不足というところが非常に厳しいという状況に変わりはございませんけれども、今年度、皆様方のご協力により新しい取り組みも始まってございます。

3月17日、徳島バスさんをはじめ県内路線バスに、県民や県としても念願のものでありました交通系ICカードが導入され、サービスが始まっております。

聞くとところによると、利用率も20%を超えて順調に上がってきているというようなところもございます。

それから、タクシー会社さんにおかれましては配車アプリの導入に積極的に取り組んでいただきまして、年度内に170台近く県内で導入が進んできているというところも聞いております。

また、こちらに電腦交通さんがおられますけれども、鳴門方面では自動運転タクシーの実証運行が3月末まで取り組んでいただきまして、これによって劇的に何かが変わるというものではございませんが、一步一步、前に向けた取り組みというの進めていただいているところかと思っております。

このような取組は行政だけで行えるものではございませんので、今日のワーキンググループにおきましても、令和8年度に向けて、国の財源も使って支援メニューも構えておりますので、そういった情報を共有させていただきまして、引き続きまたご協力いただけたらと思っておりますので、どうぞ今日はよろしく願いいたします。

(事務局)

それでは早速ですが、次第に沿って進行をさせていただきます。

まずはじめに、事務局より令和8年度の県の支援制度等についてご説明をさせていただきます。

※「資料1」について説明

(徳島県交通政策課 橋本課長)

何か補助金等に関しまして、ご質問や、ざっくばらんにご意見がございましたら、と思いますけどもいかがでしょうか。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

ユニバーサルデザインタクシーの補助対象は、新車ですよ。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

そうです、新車です。

国の制度や、他県の事例も調べまして、中古は対象にはしておりません。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

あとタクシー運転手確保支援事業が上限50万円ということですが、二種免許取得だったら、だいたい1名合宿で25万円ぐらいかかります。

ということは年間で2人ぐらいしか支援できない。これ1人に対してじゃないんですよ。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

1市町村あたりになりますので、例えばどこかの市が、こういう事業をしたいと言ったら、その市に対して県から50万円を補助します。市が総事業費の半分を負担すると仮定すると、市町村が50万円、県が50万円という形でトータル100万円ぐらいの事業者への支援ができるという想定です。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

あと外国人ドライバーもこれ1人30万。これは、市町村関係なく出るんですか。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

これは県からタクシー事業者の方に直接補助するというモデルです。

(徳島県個人タクシー協会 江口会長)

これは以前からあったんですか。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

これは今年度もやっていた事業で、補助上限が25万円だったんですけど、外国の方を招くにあたってはいろんなコストがかかってくるということで、令和8年度からは少しですが5万円引き上げて、1人当たり30万円という支援額にさせていただきました。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

そんなんでは足らんだろうな。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

全体では百数十万円かかるというのはお聞きしておりますが、そのあたりは日本人の二種免許を持たれた方もおられるので、実証事業とは言え、あまり差をつけにくいというところもありまして、令和7年度から単価の引き上げということで、構えさせていただいてございます。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

あと、もう一つは、5 ページ目の事業で、収益力の向上や利用促進に資する企画提案型というような話ですけど、なんかあまりにもぼやっとしてて。電腦さんなんかここ行きやすいところだろうなと思っちゃうんだけど。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

物価高騰やドライバー不足という中で、どうしても稼ぐ力がなかなか高められない、例えばそれが何かしらの機器を単に機器導入しますというのではなくて、それプラス、それを導入してこういう取り組みをしていくんだとか、ハードとソフトを組み合わせた取り組み、単に物を買いますというだけではなくて、それをもってこういう形で会社の収益力を高めていくんだ、というご提案をいただくようなイメージで考えております。

あくまでも公共交通事業者が対象なので、例えば電腦交通さんは、電腦交通さん単体では対象にはしなくて、それがタクシー会社やバス会社と、例えば電腦交通さんが組むような形であれば対象になります。あくまで主体は交通事業者、という制度設計を考えております。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

ちょっと漠然としすぎとんな。

もうちょっと具体的に、こういうものに使えますとか、例を挙げてくれたら分かりやすいわな。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

そのあたりは要綱や要領で、またお示しをさせていただこうと考えております。

(一般社団法人ひだまり 藤井理事)

同じく収益力強化事業の質問なんですけれども、今、うちの有償ボランティアのほうで必要なのが配車アプリというよりは、中の業務効率化の方で DX が進んでない部分について、いろいろ今取り組んではいるんですけど、やっぱり通常のタクシー会社さんと違って、その業務が個別案件というか、普通のタクシー会社さんが使っているシステムじゃないものが必要で、それをいろいろやり取りさせてもらうのにすごく時間もかかっています。

そういうのをお願いできたらと思うんですけど。配車アプリの事業は、配車アプリ、キャッシュレスと多言語しかできなくて、こっちの収益力強化事業の方は、そういうシステムプラス何かしらのものをしなきゃいけない、っていうことですね。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

ひだまりさんの場合は、ちょっとここに記載できてないんですけども、市町村向けの補助金というのを別途設けておりまして、例えば、ひだまりさんが運行するにあたって、市町村が関わるような取組に関しては、市町村に対しての補助という形にはなるんです

けども、新サービスというか、それが実証運行なのか、あるいは、その業務改善に関わる、このサービス改善なのかですね。そういったものも幅広く支援できるようなメニューを、ここにちょっと載せてないんですけど。基本は市町村だったり、その市町村が運営に関わるような交通サービスの提供、そういったものに対して2分の1補助という形で構えさせていただこうと思っております。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

では次に、タクシーの配車アプリの導入状況についての情報共有などをさせていただきます。

配車アプリについては、今年度中に、県内で約170台が導入いただく予定となっております。聞くとところによると、まだ導入して数ヶ月というところがございますけれども、車の稼働率や、お客さんも増えたんじゃないかというようなお話もいただいております。

今回、県内ではUberが浸透していているというところもございますので、今日は電脳交通の西本室長の方から、その概況について共有をいただければと思います。

よろしく申し上げます。

(株式会社電脳交通 西本室長)

ありがとうございます。電脳交通の西本と申します。

ちょっとお時間いただきまして、先ほど課長からもお話ありました徳島県内の配車アプリ、私たちにおいてはUberアプリと連携させてもらっていますけれども、実際に、県内でご導入いただいている各社さんいらっしゃると思いますので、そこでUberさんとも連携しまして、実際の活用状況や利用動向に関して、簡単におまとめしてまいりましたので、私の方からご説明させていただければと思います。

※「資料2」について説明

(徳島県交通政策課 橋本課長)

ご説明ありがとうございます。

今、最後に空港での乗り場についてご案内いただきました。

これは徳島空港ビルさんが整備したところで、県の方としても補助金を入れてご整備いただいております。

お写真のほうは今、Uberのアイコンが付いておりますけれども、Uberだけに限らず、電話による予約車両であったり、Uber以外の例えばGoさんであったり、DiDiさんであったり、通常の待機タクシーではなくて、そういった予約を受けて待たれるお車が、このエリアで止まってくださいという形で、ゾーン分けをいたしまして、従来はおもてなしタクシーの看板が立っていたエリアに設置させていただいております。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

予約で来た車両はそこで待つってことやね。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

そうですね。待機タクシーに混ざってしまうといろいろトラブルも起きかねないというお話もいただいていたので、徳島空港ビルさん、それから、国交省徳島空港事務所さんともご相談しまして、こういった形で整備したという経緯でございます。

先ほど、西本室長より Uber のお話がありました。花岡会長やノヴィルさんの方では導入してまだ数ヶ月という状況だとは思いますが、感覚的に今、状況としてどんなふうに感じられていますでしょうか。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

何人かのドライバーは、Uber を気に入っているドライバーもいれば、最初から使わないというドライバーも中にはおる状況です。

それと、仕事が忙しい時間帯のときは Uber の配車を止めてるんですよ。そうせんと、自分のところの仕事が回らんの。

あと時間帯が、電話での注文がないときは、アプリの注文もないんですよ。こういうときにあったらいいのになあ、とは思ったりけど。

配車アプリの利用者さんは外国人が多いね。

場所を説明せずにタクシーを利用したいという方が、やっぱり呼んでるかな。そういう方は、外国人の方、県外の方。だから、お年寄りの方は一切使わないですね、今のところは。そういう方が、もっとこうなんかできるようなのが欲しいんじゃないかなと思うわね、困るとる人が。

あともう一つはね、たまに、行先へ行ってちょっとマッチングの場所がずれる場合があるので、そこを改善いただけたらと思います。

(株式会社電脳交通 西本室長)

ありがとうございます。ご意見として承りました。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

ありがとうございます。

ノヴィルさんはどうですか、この数ヶ月の感覚として、いかがでしょう。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

うちは配車アプリを 11 月から始めたんですけど 11 月、12 月まではインバウンドの影響で外国人が半分ぐらいでしたが、今の情勢なんでだんだん減ってきて、1 月、2 月はほとんどいない感じです。

県内・県外で分けたら、県内が半分ぐらい、県外が半分ぐらい。

やっぱり、花岡会長もおっしゃったように、好きなドライバーは配車アプリが楽でええんですよ。

それで、配車アプリを使用するドライバーを選んだ基準っていうのは、それなりにスマホとかパソコンがまあまあできるような 40 歳から 50 歳ぐらいまでのドライバーをセレクトしてやってもらっています。

私的にはこれ、ものすごい進めたいんです。というのは、配車室の負担が減るんで。外国人からたまに電話で配車依頼があっても、外国語が分からない。だから配車アプリを前向きに前向きに考えて、配車室の負担を減らして、法人、個人、行政とかのお客さんに対応する時間も増やしたい。

それと、徳島空港での配車アプリ乗り場は、何台止めることができますか。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

2、3台のスペースになっています。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

まあ、こうしてくれたら分かりやすいな。お客さんに「あそこでお待ちしてます」って言える。

東京だとアプリ専用車っていうのがあって、その車のほうが一般のドライバーより売上を上げるっていう話がある。都内だと、年収1000万を超える人もちらほら出てきている。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

だから若いドライバーをこれで採用できる。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

前は場所がわからんというクレームがかなりあった。配車アプリだと、行き先が分かる。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

新人教育で道を覚えさせるけど、これがあつたら教育しやすい。

だからもっと、生かし方を考えた方がいい。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

今回、配車アプリの導入支援をさせてもらっているのが、車の稼働率というものもあるんですが、県の人口が減っていく中で住民の方の利用っていうのもあるんですけど、観光客であったりビジネス客、外国人であったりと、外から来られた方の利用環境改善ということもあって支援しているところまでございまして、そういう意味で、ドライバーさんにとって使いやすいツールになっているということは嬉しいところでございます。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

ただね、1ヶ月の受注状況を見たんですけど、空港から徳島市内へ送ったものが1件もなかった。

(徳島県個人タクシー協会 江口会長)

これね、交通圏の問題があって、鳴門交通圏の人しかこれだったら行けない。

たとえば、鳴門交通圏は空港から徳島駅だったら行けるようにするようなシステムやったら、喜んで参加すると思う。

だから以前から言っているのは、交通圏を徳島は3つぐらい。鳴門と徳島、小松島ぐらいをひっつけて全部行けるようにすること。なので、今流行りのライドシェアはいらない。

(徳島運輸支局 齊藤首席運輸企画専門官)

徳島空港については積み残しの問題が長くあって、そのハードルとしてあるのが交通圏の分けっていうのはおっしゃる通りでございます。

機会あるごとに交通圏を撤廃してはどうかというご要望は承っており、上級部門の方

にも上げておりますので進展をお待ちいただきたいと思います。

(徳島県個人タクシー協会 江口会長)

これ、ぜひともお願いしたい。そしたら空港も行けるし、小松島も臨時で受けれているのもあるし。個人タクシーでも、出身が小松島の人が実家から通えるし。地元と協議して日赤でも、どこでも入れるようにすれば個人タクシーがいれば 24 時間行ける体制になる。かなり仕事の面でも、うちらでも売上が上がってくる。わざわざ徳島駅まで来なくても、小松島で仕事しようと思ったらできるんじゃないかと。

なので交通圏が 1 番なんですよ、思うのは。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

今はもう交通圏どうのこうの言うてたら、それこそ市町村の過疎地とか、タクシー業者がおらんのに。行けるはずなのに。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

個人タクシーさんはどこでも行けるようにしてあげたらええんよ。田舎の方まで。そうしても、そんなに大きな影響は受けんだろうと思うけどね。

(徳島県個人タクシー協会 江口会長)

だから営業区域っていうのがネックになっている。空港から徳島駅だったら OK なアプリを作ってくれたら。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

この勉強会も、交通圏というキーワードもいただいておりまして、徳島運輸支局様の方でも上に上げてくれているということです。

後藤田知事も空港の二次交通というところは県政の課題ということで取組を進めたいと考えているところがございますので、そのあたりは運輸支局様とも情報共有しながら取り組んでまいりたいと思っております。

今、観光やインバウンドという話がありましたけれども、徳島バス様の方でも ICOCA が入りましたが、利用状況などの近況はどのような状況でしょうか。

(徳島県バス協会 金原会長)

使用率は 20%程度で、意外だったのが Suica と ICOCA の利用が半々ぐらいということで、関東圏で Suica を持っていた方がいたんだろうと考えています。

飛行機の輸送量と、バスの京阪神の年間輸送量はほぼほぼ一緒なんで。もちろん車を入れたらトータルでは京阪神が圧倒的に多いんですけど、公共交通機関ということで言うと東京と関西って、徳島から同じボリューム感なんで。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

スタートして、まだ 10 日経ってない状況でございますけれども。

(徳島県バス協会 金原会長)

今のところ大トラブルがなくてよかったです。

ただ、二人乗る時に、運転手に「二人」っていう前に先にピタッと押しちゃうとそれ

で決済してしまうので「どこから乗ったんよ」「整理券持ってないがな」というトラブルはやっぱりあります。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

配車アプリや IC カードなど、他県では当たり前のサービスがようやく浸透してきたというところがございますので、引き続き県としましても皆様と一緒にいろいろと進めていきたいと思っております。

(徳島県バス協会 金原会長)

こういう場合は、お互い顔の見える関係をつくれるのでいいと思うんですね。空港の問題でも、バスの方は定員を増やすなりしたんですけども、それでも溢れてしまう場合もあるので、こういう場でお互いしんどいなっていうのが分かるだけでも良いと思っております。

(徳島県個人タクシー協会 江口会長)

配車アプリで依頼が入っても取らなかった分が流れてしまう。その流れた分まで交通空白としてカウントされてしまう。だからタクシーが足らん足らんと言われるんです。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

配車の受注率はかなり低いですから。要するに電話して配車依頼しても車がない。配車の依頼件数はあるけど、実際に行く件数は少ない。ドライバーを増やさないことには。

(徳島県タクシー協会 花岡会長)

一番はそこやね。

(ノヴィルタクシーグループ 岩城ディレクター)

配車アプリで年収 1000 万です、徳島でも年収 800 万です、みたいな宣伝ができれば。接客が苦手な人でも配車アプリがあるので大丈夫よって。外国人でも、場所を知らなくてもいけるし。

(徳島県交通政策課 橋本課長)

非常に生の声を聴かせていただき、私ども行政としてもありがたい場と思っておりますので、今年度はこれで終了ということになりますけれども、来年度以降もこういう場で情報共有させていただければと思っておりますので、引き続き、ご指導ご協力いただけたらと思っております。

今日はどうも、お忙しい中ありがとうございました。